

1の1 道徳学習指導案

1 主題名 優しい友だち 2-(3) 友情

2 主題のねらい

友だちと仲良くし、助け合う心をもって接しようとする心情を育てる

3 学習でめざす学ぶ楽しさ

いじわるをする子の気持ちについて想像したり、いじわるした子に対しても手をさしのべたほうがいいことを自分のこととして考えたりする楽しさ

友達とは、互いに理解し合い、協力し合い、助け合う存在である。家族以外で特に深くかかわる存在であり、友達とのかかわりの中から人間関係のあり方を学ぶことも多い。日常的に互いを認め合うことで、友達への信頼感が育まれ、望ましい友達関係が築かれていくのである。友達と一緒に楽しく過ごしたり、困っているときには助けてあげたりすることは、望ましい友達関係であることの表れである。その友達がたとえわがままであったり意地悪であったとしても、手を差し伸べられる優しい心をもつことを、この学習で学ばせたい。

本学級の子どもは、まだ幼児期の自己中心性が残っており、友達や相手のことを考えたり思いやったりできる子が多くない。特定の子には仲良くできるが、小学校で初めて出会った友達のことには関心がもてないときもある。逆に、誰にでも優しく接することができる子もいるが、まだまだ自分のことしか考えていない子も多い。同じ学級で学ぶ友達として、仲良く助け合うことの大切さに改めて気づき、実践してみようという意欲につながることを期待したい。道徳の時間で、読み物資料を使った授業をするのは、今回が初めての子どもである。

この学習では、資料に出てくる登場人物と自分を重ねながら考えていく。資料「くまさんのなみだ」は、森の動物たちと仲良くできない意地悪なくまさんが、森の動物たちに助けをもらう話である。

友達ならば、遊びの邪魔をするなどの意地悪をすることは、許せない行動である。そこで、アスプロ思考を取り入れ、邪魔をしたくまさんの気持ちを想像することで、意地悪をしたくなる気持ちにもそれなりの理由があることに触れさせたい。「邪魔をしたくまさんの気持ちもわかるよ。」「だからといって、邪魔をしてもいいのかな。」と考えをめぐらせることによって、邪魔をすることはよくないことだという思いをより強めていきたい。また、そのくまさんが困ったときに、助けたくなくなる気持ちについても考えてみることで、助けたほうが道徳的に価値が高いことも再認識させていく。この2つの場面でアスプロ思考を取り入れることによって、正しいとわかっているにもかかわらずできないことがあるという自分の姿や人としての本音と建前の部分を意識させていきたい。

授業の終末には、これまで助けをもらってうれしかった気持ちを思い起こすというふり返りの場面を設定する。そうすることで、自分も友達を助けたい、その友達が意地悪でも優しくしたいと感じられるようにしたい。この学習で学んだ心情が、これからの生き方の中で想起され、実践につながっていったらと願っている。

5 本時の学習

(1) ねらい

友達ならどうしたらいいかを自分のこととして考え、友達を大切にしていこうとする心情をつかむ。

